

飼養管理を見直そう！

酪農を取り巻く情勢が厳しい現在、自給飼料（サイレージ）と濃厚飼料で、効率的に乳量を出すことが求められています。

エサ設計で必要とされる要求量（表1）を満たすことも、もちろん大切ですが、設計どおりに牛が食べてくれないければ何にもなりません。そこで、牛に一口でも多くのエサを食べてもらうための飼養管理を確認してみましよう。

表1 ホルスタインのDM 要求量

体重(kg)	500	600	700	800
4%FCM乳量～体重に対する乾物要求量				
乳量(kg/日)				
15	14.0	15.6	16.1	17.6
20	16.0	17.4	18.2	19.2
25	17.5	19.2	20.3	21.6
30	19.5	21.0	22.4	23.2
35	21.0	22.2	23.8	24.8
40	23.0	24.0	25.2	26.4
45	25.0	25.8	26.6	28.0
50	27.0	28.2	28.7	29.6

1. エサよせ、飼槽の状態

TMRも、分離給与でも、エサの掃きよせは、乾物摂取量を高めるのに効果的です。牛の目の前に、何回もエサがある状況をつくり、飼槽にエサがない状況をつく

らないように注意しましょう（写真1・2）。

また、①残飼の片付け②飼槽をきれいにすることも重要です。



写真2 エサの掃きよせ実施後

写真1 エサの掃きよせ実施前

2. サイレージの状態を確認

給与しているサイレージが、2次発酵やカビなどで不良発酵している場合は、その部分を確実に取り除きます（写真3）。



写真3 傷んでいるところを見逃さないように

3. 水槽の点検（水は、第2のエサ）

飲水が制限されると、乾物摂取量もあがりません。①新鮮で、②きれいな水を、③いつでも、飲めるように飲水施設の掃除をしましょう（写真4）。また、冬場は洗った後の水による床の凍結にも注意が必要です。



写真4 食べこぼしのエサなどが溜まらないように清掃しましょう

5. 冬場の換気

冬場は、風雪や寒さなどで牛舎内を閉め切りがちです。しかし、寒さよりも汚れた空気の方が、乾物摂取量を制限する要因となります。したがって、降雪や風が強い日以外は、日中、窓・扉などを開放し、空気の入れ換えをしましょう。

6. 腹の張り具合を観察

食えているのか、いないのか、腹の張り具合を観察することが重要です（写真5）。



写真5 「お腹が張って、十分食えている状態ですか？」

4. 敷料は、たっぷり敷料を十分に入れて、牛の安楽